近藤　慶子	34
森木三千代	34
中村　文江	34
黒坂まさを	34
秋田　里江	34
染谷　育子	34
堀江　　浩	34
鈴木　哲夫	35
澤井　久江	35
勝又千嘉子	35
津川　明子	35
小川　元春	35
鈴木日出子	35
小沢　直子	36
鶴　　園江	36
金子　久雄	36
西方加代子	36
高橋　有子	36
遠藤キヨ子	36
小見山美代子	36
高橋　　慶	36
福田　政子	36
保坂　朋子	36
児矢野茂子	36
川本　　登	36
松田　美代	36
宇佐美忠邦	36
清水東代子	36
加藤　迪子	37
諸留　和夫	37
立石　節子	38
津山　三郎	38
矢内　和明	38
堀　　洋子	38
大川久美子	38
正木都美子	38
高橋　和子	38
金子　早苗	38
今村　岱世	39
黒川　純一	39
小林　利江	39

佐藤　太治	39
斉藤　悦子	39
田中　孝子	39
桐澤　保勝	39
河村　弘一	40
大山　千代	41
飯島　誠子	41
御園生　博	41
佐々木　孝	41
染谷　三郎	41
長谷川トシ子	41
丸山美栄子	41
福沢　栄子	41
五百川　武	41
河野　節子	41
八木　敏行	41
須藤祐三郎	41
宮田　立治	41
三田村　伸	41
嶋田　孝雄	41
有山　慶子	41
網田　キヨ	42
高島　章	42
嵯峨ナリ子	42
平川　國彦	42
徳江　義弘	42
平川　真澄	42
草野　ムツ	42
渡辺　孝夫	42
木村　節子	42
佐藤　　博	42
廣田　廣子	42
柳沼　健一	42
土田　信幸	42
皆川　　茂	42
小林　良雄	42
加藤　コマ	42
釜　与志雄	43
斉藤　　至	43
斉藤　広子	43
寺門　正江	44

二ッ森信蔵	44
渡辺　正一	44
佐伯　初江	44
小林　　眞	44
大村　静雄	44
丸山　　豊	44
和田浜幸枝	44
川下　省三	44
田崎　素子	44
上城さよ子	44
五十嵐　修	44
中村　信夫	45
斉藤　新二	45
有満ふき子	46
森　　英也	46
鈴木　陽三	47
上野　静代	47
佐藤　二見	47
梅沢　静枝	47
矢崎久美子	48
小池久美子	49
有坂　律子	49
槇野　徳光	50
平山　芳三	50
平田　福正	50
白井　裕子	52
高橋　　實	53
菊永　美也	54
田中美佐子	55
八方　仁子	55
佐々木光江	55
斉藤　静代	59
熊倉樹仁緒	60
芦沢　一明	61
柏木　良子	62
小原　友子	63
古茶　勝彦	H1
渡辺　浩之	H4
梨本　真也	H4

全国の会員から維持費・名簿代金ご協力に感謝します

会長　五百川　武

全国の会員の皆様、いつも同窓会活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

今年度も二八五名より維持費と五名より名簿代の入金があり、厚く御礼申し上げます。

今年の同窓会も昨年に引き続き三十年卒の川上忠重氏（サンコーパック㈱社長）の"健康について"の講演をお願いしました。近年、成人病についての関心は高く、皆さん、メモなどをとり、熱心に聴講しました。

そのあとの懇親会は、いつも五十年卒の平田福正氏の手作りの料理で話題が広がります。

"オセンチ山"には、各々の世代の思い出などを掲載しています。

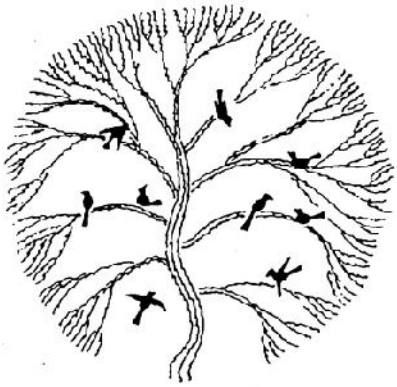
"会員だより"は、振込用紙の通信欄の近況を載せています。

三年・四年と返信用ハガキを同封いたしましたが、今年は、諸経費等を考慮して取り止めましたが、同窓会へはどうぞご出席下さるようお願いいたします。

今年の卒業生は二十三名と少なく、これからの道は厳しいことが予想されます。

しかし、現在二千名余の住所が判明し、このように活動が続けられていることを思うとき、出来るかぎり次の世代へ継続するために努力したいと思います。

毎年、皆様には、維持費を送金いただき、活動が出来ることを何より感謝しております。お蔭様で、七十周年に向けての準備金も少しずつ積立てることが出来ています。



これからは、一人でも多く名簿の掘り起こしに努力したいと思いますので、級会など名簿の整理が出来ている学年は、是非、同窓会へもお送り下さい。

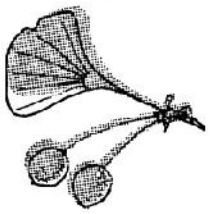
また、"ともかき"にもお知らせ欄を設けますので、級会などにご利用下さい。

皆様のご意見、ご投稿、級会のご様子などをお知らせ下さるようお願いいたします。

退職しての八年

木下和子（昭37・9～61・3）

退職して八年め、現在は週一回の体操教室、月二回のマクラメ編み、月三回の温水プール、図書館から借りる二週間六冊の読書という優雅な暮らしだが、二年前迄は実に多忙を極めた。専門学校二校の文学の講師は、国語の常識、つまり小学校上級から大学二年程度迄の指導で教材はすべて手作り。多様な生徒への対応は、定時制勤務が長かったお蔭で何とかこなせたのだと思う。昭和六十二年春から平成三年九月までは江戸語辞典の執筆で寸暇もなくなり、講師もやめ、趣味もやめ、家事も手抜き、十分の隙でも机に向う有様で漸くに書き上げた。その間、十年も病床にあった母が植物状態の二ヶ月を経て亡くなり、九十歳を越えた父も三ヶ月の入院後死亡。私は生まれて初めての入院を一年に二度も経験した。好きだった海外旅行も退職後は、揚子江下り、韓国、マレーシアと三回だけ。現在はまだ体に自信がなくて遠くへは行けない。しかし文学散歩はやめられず、東京近辺を折りにふれて歩く。考えてみると、三田高に二十五年間も勤めてしまったのも、赤羽橋にあって近くに、芝、高輪、品川など江戸文学に登場する地が数多くあったためかも知れない。老齢になった今、思い出になった三田高は、校庭に彩られたおセンチ山のつつじであり、空を舞うとんび、校門の銀杏の実、古い校舎の石敷きの廊下などの幻影である。



追記

高橋百合子先生（家庭）が視力を失われて長い入院生活を送られています。お見舞の手紙などさしあげて頂けませんか。

妹様の住所

〒359　所沢市若狭一丁目二九六一一

ザ・スティッ所沢二〇四

寿乃田正子（方）